

第23講 「傍流的形容節」は「役外族」の「名語句」由来

「形容節詞」というものは、≪①『文。』中の「(「形容語句」同伴の) 名語句」を「先行詞」として出し、②次に「形容節詞」を置き、③『文。』の残りの部分を後ろにそのままつなげて「形容節」とし、「先行詞」を修飾し、④「形容節」は「吸収・消滅」の運命であるから、全体として「名句」になり、⑤次の新たなる『文。』の「主目補」「成句詞の後属役」となっていくという過程で、「形容節」の目印として活躍しているものである≫ということが理解できたでしょうか

前講では、「先行詞」となる「名詞」を「構成要素」すなわち「主目補」から選定してきました（ある意味、「主流」といえるでしょう）

本講では、**6、「副句」の「後属名語句」**や、**7、「形容句」の「後属名語句」**や、**8、「所有格」がついた「名語句」**や、**9、「群成句詞」の「後属名語句」**が、「先行詞」となっていく場合を見ていきます

『文。』の主流本流ともいうべき「構成要素」からの「先行詞」に対して、『文。』の傍流である「役外族」からの「先行詞」ですから、「傍流的形容節」と呼称・分類しているのです（「外様形容節」といってもいいでしょう）

では、順次、見ていきましょう

6、「副句の後属役の名語句」を「先行詞」にする場合

He bought the books at the shop .

①「説明したい名句」

「at the shop」は「副句」ですね

「成句詞at」の「後属役」の「名語句」を「先行詞」にしてみましょう

the shop which he bought the book at 欠落

①「先行詞」

②「形容節詞」

③「形容節」（吸収・消滅）

④全体で「名句」

この段階では、「構成来形容節語」と同様に「欠落」があります

しかし、もともと「副句」は「成句詞」＋「後属役名語句」であり、

「at the shop」という元の「かたち」のように、「which」の前に「at」を移動することができるのです（まさに、「形容節句」ですね）

the shop at which he bought the book 無欠

すると、「at which」という、≪「成句詞」＋「構成来形容節語」≫という特別な「副句」的な「形容節句（群形容節詞）」ができます

この段階で、「形容節」には「欠落」がなくなり『完全無欠な「節」』になりました
ここで、この「which」は「成句詞の後属役」であることになり、「代名詞」的な性質をもちます（旧来の「関係代名詞」の命名由来のひとつですね）

the shop at which he bought the book

さらには、「at the place」という「副句」が「there」という「副語」に置き換えられるように、「at which」という「特別な副句」が「where」という「（副詞的な）形容節語」に置き換えられるのです

そして、「副句」の「後属役名語句」に着目し「先行詞」としたということで、「役外来形容節詞（語）」と命名したのです（別称「副詞的形容節詞（語）」）

the shop where he bought the book

「役外来形容節詞（語）」に導かれた「形容節」

「成句詞＋構成来形容節語」をおきかえた「役外来形容節語」は、「完全な『文。』」を持った「形容節」を従え、「形容節」の標識となるものです

このような「理屈」はともかく、注目していただきたいのは、

「構成来形容節語」＋「不完全な『節』」

「成句詞」＋「構成来形容節語」＋「完全な『節』」

「役外来形容節語」＋「完全な『節』」

ということです

「役外来形容節語」が使われている場合、その元の『文。』では「副句」の「名語句」であったものを「先行詞」にしているのであって、「構成要素」の「名語句」はそのままなので、「役外来形容節語」に導かれる「形容節」には「欠落」は生ぜず、「完全な『文。』」となるのです（「構成要素」を「先行詞」にすると、「形容節」に「欠落」生じるのはいいですね）

以上のように、「時・場所」等の副句中の名語句に注目して「先行詞」にすると、「役外来形容節詞（語）」に導かれた「形容節」が生じることを認識してください

以上は、「副句」から「先行詞」を出す場合について、「場所」の「副句」を例にして「役外来形容節語」をみてきましたが、「役外来形容節語」には、「時」「場所」「理由」「手段」の4種あります

これから、残りの「時」「理由」「手段」について、「場所」と同様、以下の手順でみていきます

「構成来形容節」から「役外来形容節」への「手順」

- ① の『文。』の「副句」の「後属名語句」から「先行詞」を出す
- ② 「構成来形容節詞」を置き、残りをそのままに「形容節」をつくる
- ③ 「成句詞」を「構成来形容節語」の前に移動する
- ④ 「成句詞」＋「構成来形容節語」を「役外来形容節語」に置き換える

「時」をあらわす「役外来形容節語」の「when」

- ① He saw the rainbow at that time .
- ② that time which he saw the rainbow at 欠落
- ③ that time at which he saw the rainbow
- ④ that time whenhe saw the rainbow

「理由」をあらわす「役外来形容節語」の「why」

- ① He became a doctor for a reason .
- ② a reason whichhe became a doctor for 欠落
- ③ a reason for whichhe became a doctor
- ④ a reason whyhe became a doctor (通例使わない)
- ⑤ a reason (省略) he became a doctor
- ⑥ (先行詞省略) whyhe became a doctor (単なる「疑問名節」)

「役外来形容節語」の「why」の場合、「役外来形容節語 (⑤)」か「先行詞 (⑥)」のいずれかを省略することが通例になっています

「先行詞」を省略した⑥は、「疑問副詞兼名節詞」に導かれた「名節」となります

「手段」をあらわす「役外来形容節語」の「how」

- ① He solved the problem in a way .
- ② a way which he solved the problem in 欠落
- ③ a way in which he solved the problem
- ④ a way how he solved the problem (使わない)
- ⑤ a way (必ず省略) he solved the problem
- ⑥ (必ず先行詞省略) how he solved the problem (単なる「疑問名節」)

「役外来形容節語」の「how」の場合、「役外来形容節語」か「先行詞」のどちらかを必ず省略することになっています

「先行詞」を省略した⑥は、「疑問副詞兼名節詞」に導かれた「名節」となります

「役外来形容節語」のまとめ

→ 「形容節」を導くのが仕事

- ① 「時・when」「場所・where」「理由・why」「方法・how」がある
 - ② 「when」「where」「why」のかわりに「that」がつかえる
 - ③ 「the time」「the place」「the reason」等の典型的な「先行詞」は省略されやすい → 「疑問副詞兼名節詞」の導く「名節」になる
 - ④ 典型的な「先行詞」のあとの「役外来形容節語」は省略されやすい
 - ⑤ 「the reason」「why」の場合、どちらかが省略されるのが通例
 - ⑥ 「the way」「how」は必ずどちらかが省略される
- 蛇補足ですが、
- ⑦ 「when」「where」には、「構成来形容節語」同様、「継続的用法（カンマ用）」がある（「継続的用法→副詞的用法」は別巻で学習する予定です）

7、「形容句の後属役の名語句」を「先行詞」にする場合

「形容句」が「主語」についている場合の「形容句」の「名語句」を「先行詞」にしてみましょう

The tree in the park is famous .
「説明したい名句」

「in the park」は「形容句」ですね
「成節詞 in」の「後属役名語句」を「先行詞」にしてみましょう

まずは、「先行詞」を出し、直後に「構成来形容節語」を置いてみましょう

the park which the tree in 欠落 is famous
「先行詞」 「形容節」(吸収・消滅)
全体で「名句」

論理的ではありますが、このような段階のままでは、「ネイティブでは」使用されませんので、(致し方ありません、)「in」を「構成来形容節語」の前に出します

the park in which the tree is famous
「先行詞」 「形容節」(吸収・消滅)
全体で「名句」

これは、「構成来形容節語」+「the tree is famous」で、日本人にとってはわかりやすいのですが、次のように、元の『文。』の語順を尊重して単純に「先行詞」を出したあとの「欠落」部分に「構成来形容節語」を埋め込むのがネイティブ仕様なのです

the park the tree in which is famous
「先行詞」 「形容節」(吸収・消滅)
全体で「名句」

一見変に見えるかもしれませんが、元の語順に忠実な「形容節」で論理的なので、これが標準的に使用されるようです

このように、「成句詞+形容節語」が「形容節」の文頭ではなく、「形容節」の中にまぎれている場合があるのです

では、「形容句」が「目的語」についている場合をみてみましょう

I forgot the name of the actor .
「説明したい名詞」

全体で「名目的句」

① the actor whom I forgot the name of 欠落

② the actor of whom I forgot the name

③ the actor the name of whom I forgot 欠落

元の「名目的句」の語順のまま

(私がその名前を忘れてしまったその俳優)

どれも可能ですが、①が一般常用的で、③が論文で多用されるようです

(参考: the actor whose name I forgot 欠落)

8、 「所有格形容詞のついた名詞」を「先行詞」にする場合

The name of the dog is funny.

「成節詞 of」の「後属役名詞」を「先行詞」にすると、

the dog the name of which is funny
となるのは、もう大丈夫ですね

では、元の『文。』の「of the dog」は「形容句」ですが、「所有格」(＝「形容詞」) で元の『文』を書き換えると、

The dog's name is funny.

となりますが、「The dog」を「先行詞」とすると、「's」が「所有格の形容節詞」(「形容語」の性質をもっていますし、「his」と同じです) としてあらわれてきます

the dog whose name is funny

(その名前がおもしろい犬)

「形容句」と「所有格」との深い関わりが見てとれたでしょうか

「形容句」と「所有格」から派生する「形容節詞」は意外と難しいものですかね
従来は、「所有格」の「**関係代名詞**」といわれてはいますが、「形容句」からくるものであり、しかも、「所有格の代名詞 (my・our・your・his・her・their)」の本質がそもそも「**形容詞**」なので、「所有格の**関係代名詞**」ではなく、「**関係形容詞**」と呼ばれるにふさわしいものなのですが、旧来的命名は無視して、「**形容節詞**」のひとつに過ぎないものと位置づけて理解してください

「whose name」の「whose」は、「name」という「名語」を修飾しつつ、「形容節」をつくっていて、まさに「**形容詞的形容節詞 (語)**」と呼ぶに値するものです

9、「群成句詞の後属役の名語句」を「先行詞」にする場合

「群成句詞」

「群成句詞」とは、《複数の単語の集合体で「成句詞 (語)」の役割を果たしているもの》で、「in front of」「because of」「by means of」「in spite of」「thanks to」「out of」等です

これらは、複雑な状態・状況を表したい場合で、たまたま一語であらわす適切な「成句詞」がなかった等の理由で、合成して「成句詞」がつくられているのです

ですから、「I live in front of the station.」を「in front」を「副句」で「of the station」が「front」を修飾する「形容句」と完全に分解しても有用ではないのです

「in front of」で「～の前に」という意味の「一語の成句詞」と理解した方が合理的なのです (「before」より「前」の意味を強調できるのでしょう)

このように、《複数の単語で1語の「成句語」と同様の働きをして、「品詞分解」をする合理性がなく、1単語として扱うべきもの》を「群成句詞」といいます

では、「群成句詞」の含まれた『文。』の、「群成句詞」の「後属目的名語句」を「先行詞」にしてみましょう

He lives in front of the station .
「群成句詞」 「先行詞にする名詞」

全体で「副句」

the station in front of which he lives

日本語になりにくいのですが、「彼が住んでいるところの前にある駅」とでも訳すしかないですね

「成句詞」＋「構成来形容節語」ということで、「役外来形容節語（「where」）」に置き換えると、「彼が住んでいる駅」となり、「彼は駅そのものに住んでいる」ことになってしまい、置き換えることはできません

10、「意味の強い成句詞の後属役の名語句」を「先行詞」にする場合

「前置詞」の個性が強い場合、むやみに「役外来形容節語」におきかえると、「言いたい内容」が損なわれます

また、その意味の強さゆえに、必ず「構成来形容節語」の前に置きます

「during」「near」「since」「beyond」「besides」等があげられます

He studied English during the summer .
「先行詞」にする「名語句」

the summer **during which** he studied English

「彼が英語をずっと勉強した夏」

ここで「during which」を「役外来形容節語」の「when」に置き換えると、「ずっと」という細かい意味があらわれなくなりますから、置き換えることはできないのです

「傍流的形容節」という考え方は難しかったですかね

まずは、「構成来形容節語」「役外来形容節詞」の基本を確実におさえ、「傍流的形容節」の全体の理解を目指してください

次講と次々講で、本稿の仕上げに入りまして、文意を整える役割効果を有する「助動詞」と「助動詞」を使った「条件」の提示についてみていきます